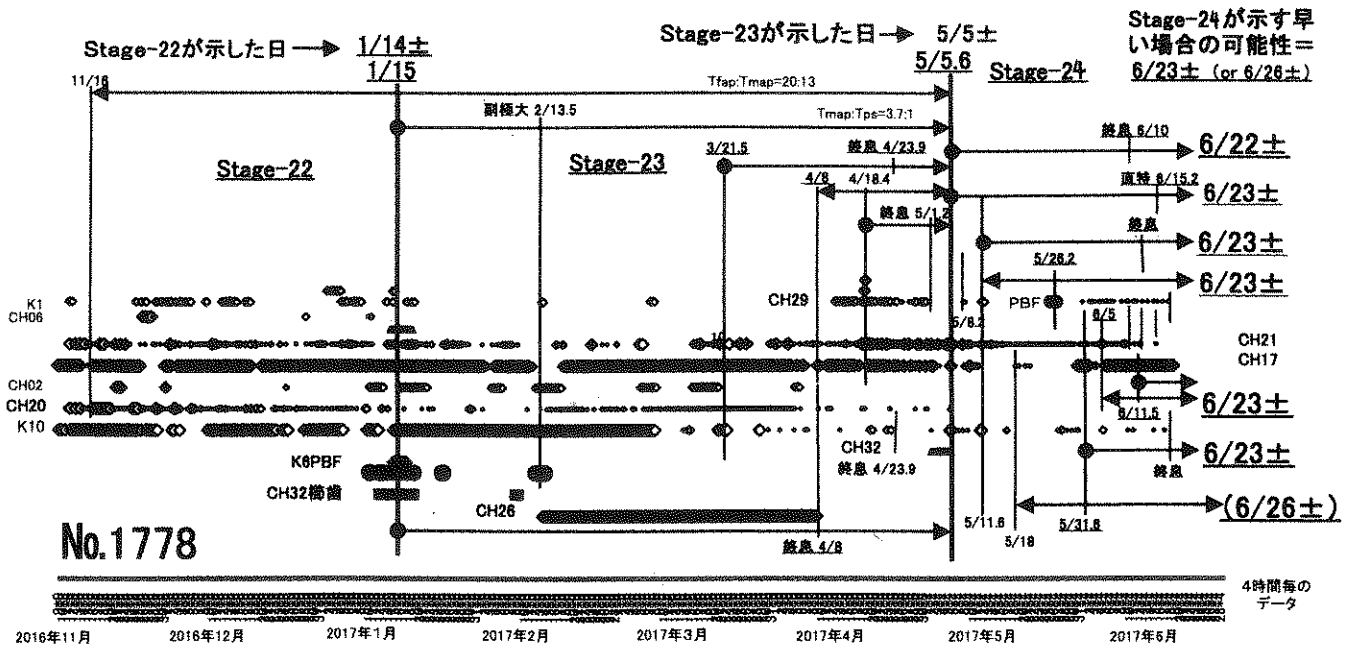


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 CH21・CH29・K10 全て静穏基線
残存前兆 CH17 6/20静穏化の場合 ⇒ 6/23 発生の可能性



No.1778

6/16配信の観測情報で、No.1778前兆の最近迄の前兆変化の見直しから、第25ステージ認識は誤りで、第24ステージで推移していること、6/27±の他、6/23±の可能性も否定できないことを報告させて頂きました。

6/23±より6/27±の方が考えやすい可能性も考えておりましたが、既にK10, CH29は静穏化、CH21も数日静穏基線を記録しており、現在継続中前兆はCH17の糸状特異のみとなっています。

前兆の再出現の有無を確認しておりましたが、6/18午後現在、CH17特異のみで、他の前兆の再出現はありません。そこで、第24ステージの前兆の関係を見直した結果、6/23±の可能性が十分に考えられる見解となりました。

CH17は糸状特異が継続しておりますが、6/11.5に短時間正常基線を記録しました。この6/11.5を最終極大としますと、6/23±を示す関係が認識できます。

唯一の残存前兆となったCH17が6/20に静穏化し、他の前兆の再出現が無い場合は、約9年続いたNo.1778前兆の対応地震が6/23に発生する可能性が示唆されることとなります。

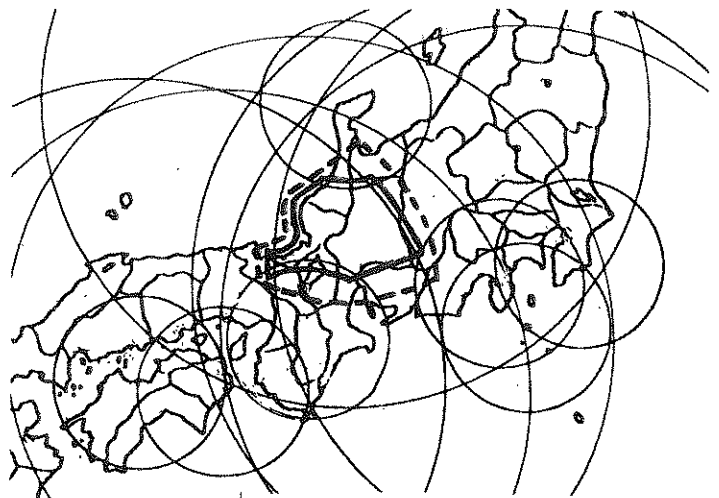
CH17が6/20に静穏化するが、注意深く観測し、続報でご報告させて頂きます。

◆推定領域：下図 点線領域=大枠 太線領域内=可能性高い
※ある程度火山に近い領域の可能性有
(※影響局誤認の場合は福島付近となるが下図領域が考え易い)

◆推定規模：M7.8 ± 0.5 (震源浅い陸域日本列島地殻地震)

◆推定時期：実際の前兆終息を観測後計算予定
(※6/21以降に前兆) CH17が6/20静穏化した場合=6月23日
(継続の場合は再考)

◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)



※6/16段階での見解は E-mail と FAX で配信している観測情報のみで報告致しました。
HPの続報は出しておりません。お許し下さい。